

やっつてまおか計画

今月の講師は プロの左官 亀井さん

その土地にある材料（竹と土とわら）で造られる昔ながらの

土壁を、自分が造る事ができると、みんなわくわくしてこの日を迎えました。

亀井さんの紹介は、次号

竹小舞を編んだよ



先月金ちゃんさんの指導で竹小舞を編むための「間渡し竹」を差し込む穴をあける作業を行いました。が、今月はその作業の続きです。はじめに、講師の亀井さんから「竹小舞」の地下全般の説明がありました。まず壁を塗るための芯となる「竹小舞」ですが、その「竹小舞」の支柱となるのが、太め（25ミリ×30ミリ巾）の竹を使う「間渡し竹」です。



縦の「間渡し竹」は、柱から二寸五分の位置と真ん中を通して三本になります。上下のエツリ穴に差し込み、交差する貫（ぬき）に25ミリ以上の釘で留めます。重要なことは下で受けるエツリ穴の底に「間渡し竹」が着いてしまわな

2014年
第二期
二回目
10月25
～26日分
NO2号

今月の感想をみんなで交流
金ちゃんも亀井さんからも一言い
ただきました

でご本人に書いてもらいます。（よろしくね）
今月は欠席者はなく
全員が参加です。二期目の人たちも二回目となり親しくあいさつを交わします。

エツリ穴の作業から取り掛かりました。が、山本さんには、金ちゃんから特別任務が与えられ、壁の一番下の部分（壁受け？）を造る作業です。

いつも以上に、みんな黙々と自分の持ち場の壁にむかって作業に没頭しました。

日曜日には、芦田さんの奥さんも犬を連れて激励に来てくれました。

今月の作業（竹小舞）

いで、少し余裕を持たせることです。「間渡し竹」に遊びがなければ、揺れを吸収できず、壁自体がゆがんだりふくらんだりしてしまいます。横方向は、貫（ぬき）の上、下二寸五分の位置と上端となる桁（梁）から二寸五分下の位置と下端から二寸五分上の位置に穴をあけてしっかり留めてゆきます。

「間渡し竹」が出来上がると、いよいよ格子となる細い目の「小舞竹」を編んでゆきます。「小舞竹」の間隔は35ミリほどで、縦の「小舞竹」は外から、横の小舞竹は中から「間渡し竹」に留めてゆきます。

一ヒロ程の細縄で千鳥掻という巻き方で留めてゆきます。わらを編んだ縄の特性は、この作業で感心させられます。結ぶことなく絡ませて締め付けるだけで繋ぐことができます。

編みあがった竹小舞の美しさは、土壁で隠してしまうのがもったいなく、いとみんなが思ったことでしょう



前回の参加者

講師	事務局	受講生										
金田 克彦	草刈 正年	山田美奈子	岩本 莉依	池田 幸恵	渡辺 恭子	都田 直人	中川 幸嗣	多田 晃	山本 晋也	岩田 猛男	加茂 説子	定方 克之



今月もフォンディングの料理でした